女子教育演說

女子教育問題に就て

教育は邦家の生命元氣となるべき人材を養成し、永遠不朽に發達すべき邦家の基礎を培養する須要機關なり。されば之が發達整頓を計らずして、徒らに邦家富强の策を講じ永久の基礎を定めんとするは、猶ほ砂上に家屋を建設すると一般、其風雨の厄に逢ふて傾倒せざるもの殆ど稀なりとす。思ふに我邦輓近文運の進歩寧ろ驚くべきものあつて存す、其教育制度の著しく整頓發達し來りて、山村の邊、水郭の畔、兒童の學舍に昇降するより、中央大都の下、世界に比肩すべき帝國大學の設けあるが如き、其教育普及の程度と高等教育を施す學校數との如きは、之れを歐米文化の隆運と同一視すべきに非らずと雖も、兎に角、開國三十年間、教育制度比年進歩の結果として、一般國民智識の程度著しく增進し、同時に無學者の數減少して、迷信漸く薄らぎ、惡風次第に改まり、從つて國民の品位徐々上進し來りしは、内外人の齊く之を認識せざるを得ざるの事實とす。然り事實たるに相違なしと雖も、一たび進んで之を大局の上より觀察する時は、吾人をして緘默を守る能はざらしむるものあるを見るなり。何ぞや我邦に於る女子教育問題是なり。

從來我邦に於て教育とし曰はく、無意識的に男子教育のみを指すものなるかの如く思惟し、加之實際に於ける教育機關も、亦專ら男子を教育すべく備へられしが如きの觀あり。勿論近來に至り僅かに女子教育の聲を聽くものあるも、其の聲や實に微且つ弱にして、しかも亦女子教育とは、半ば一種の遊樂なるかの如く思惟せられ其の多くは實用を期せず、富裕餘りある名門富家の女子が、慰み半分に學ぶが如き迹なきに非らず、從つて其高等教育を施すべき學校の僅少なると、其の組織の不完全なるは吾人をして、轉た悵然たらしむるものなくんばあらず。故に其所謂教育あ

る婦人と云ふも多くは半知半解のもの多く、世人をして往々其の弊害に堪へざらしめ、遂に非女子教育をさへ唱道せしむるものあるに至る。更に又教育なき一般多數の婦女子の如きは、全く世運時潮の以外に別居して、國家の死生存亡に關する問題に對してさへ、冷々淡々相關知せざるが如きものあるなり。事情斯の如くなるを以て。一般社會に於ける婦女子の地位、殆ど認識せられず、有れども無きが如きの觀あるは是れ豈文明國の眞相なる可けんや。況んや之の新機運に鞭ち、新運命を世界の活戰場裡に試みんとする新興國の狀態なるべけんや。女子の天才を發揮し、女子の本性を發揚し、女子の地位を上進せしむるは實に我邦戰後の經營問題中最急最要の問題なりと云ふも誰れか敢て之を拒まんや。

蓋し女子の社會に於ける實際の地位程、範圍の廣く、其責任の重く、其影響の大なるもの少なかる可し。手近かく例せば妻となりては其夫に對する責任あり、母となりては其子女を教養撫育する義務あり、其子女と云ふの故を以て輕視し去る事勿れ。這般子女こそ、之れ實に將來國家社會を繼續す可き第二の國民にして其之を教養するの責任重大なるは云ふ迄もなく、影響の及ぶ所寔とに一人一家に止らず、延いて邦家命運の消長興廢に大關係あるを忘るべからざるなり。經世經國に志ある者、眼中豈女子問題を沒了して可ならんや。

果して然らば如何にしてか女子の天才を發揮し、勢力を發揚し、地位を增進するを得るか、此問題を解釋せんと欲せば吾人は女子教育を措て他に求む可らざるを確信するなり、然らば即戰後經營問題中の問題たる女子問題も歸着する所教育問題に在るを知らずや。

女子教育、是れ實に刻下の最要問題に屬す。然れども此範圍の廣く且大なる問題に對して吾人は今此に之を詳論するの遑を有せず。讀者請ふ、其詳細を知らんと欲せば拙著「女子教育」、嵩山堂編輯の「女子教育談」及び今將に出んとする此の「女子教育演說」等を一讀あれ。然るに其の後世間往々吾人の本意を誤解する者亦なきにしもあらざるも

のゝ如し、乃ち玆に吾人が近時同志と共に其設立計畫を天下に發表せし女子大學校の程度及び位地等に關し、聊か吾人の所信を開陳し以て本書の序言に代へんと欲す。

吾人の今將に設立せんと欲する所の女學校は、之を稱して日本女子大學校と云ふ。稱して日本女子大學校と云ふと雖も、其實其内部には、幼稚園あり、小學校あり、高等女學校あり、大學本科あり、故に其目的も亦必ずしも唯大學教育のみにあらざるや明白なり。之を要するに、日本女子大學校設立の目的大略三つあり。一に曰く、女子教育の上進を謀るに在り。是れ高等女學校卒業後、大凡三ケ年修業の大學本科を設けんと欲する所以なり。而して此の大學本科あるは、卽日本女子大學校てふ名稱の因て起りたる所以なりとす。二に曰く、學理的並に實地的に、女子教育を研究し、其の改善を催がし、以て愈々日本女子に適切なる教育を發達せしめんとするに在り。是れ下に幼稚園、小學校、若くは高等女學校を設け、旁ら以て女子教育研究の目的を達せんと欲する所似なり。夫斯の如く、女子教育の上進を謀り、改善を促し、以て間接に、女子教育並に教育全般の普及を助けんと欲す。是れ實に、其の第三の目的なり。故に日本女子大學校の目的は、唯大學教育のみを施すに非らず、從て其の組織も、亦唯大學部のみにて成立する者に非らざるなり。夫れ此の女子大學は本邦に於て創設に屬するのみならず、吾人は後來日本社會が進步發達するに伴ふて益々必要を感じ來る此の女子大學部に十分力を致さんとする素志を懷くが故に、其内に幼稚園あるも之れを幼稚園とも云はず、小學校あるも之を小學校とも命ぜず、高等女學校あるも之を高等女學校とも呼ばずして、日本女子大學校とは稱したるなり。

又其程度の如きは、徒らに高淵を尊ぶに非らず。又卑近を好むに非ず。未だ曾て世界に比類なき、一種特別の、吾邦婦人に心要適切なる程度の女子大學校を興さんことを期するに在り。故に或る論者の言の如く、強に順序を誤り、程度に頓着せざる架空的計畫に非ざるなり。之を換言すれば、吾人が設立せんとする女子大學は、本邦女子の體力と智

力との發達の程度に順當したる、一種特異の高等專門教育を施さんことを期するものにして、決して日本男兒の爲に設けられたる帝國大學と其の高きを爭ひ、若くば北米女子の爲に設けたる女子大學と其度を等せんと欲するものにあらざるなり。夫れ均しく大學と云ふも、其程度高低參差、必ずしも一定不動の者に非ざるなり。世には高度の大學もあれば、低度の大學もあるものなり。然り而して、吾人が女子大學を設立するは、本邦現時の女子教育の程度を、今一層高尚の度に進めんと欲するに在りと云ふは、取りも直さず過度に高等なる女子大學を設くるの弊を避け、本邦婦人に適合せる程度の女子大學を建てゝ以て順次秩序的發達を遂げしめんとする所以なりとす。

又或る論者は曰く、本邦女子の中等教育未だ普及せざる今日、一躍して女子大學を設立するは、楷梯なき樓閣を建築すると何ぞ擇ばんやと。是れ實に一應道理ある議論にして、等閑に付し去るべからざるものなりと雖も、詮する所寧ろ皮相の見たるを免れざるなり。之を內外の教育史に徵するに教育事業の普及發達の跡には自ら低きより高きに進むと、高きより低きに及ぼすとの二途あるを認む。此の二途たるや、場合と時機とに臨み、前後緩急に應じて、偏重偏輕なく、適用採擇すべきものなりとす。若し夫れ中等教育が具備完成せざる以上は斷じて女子大學を起すべからずと云ふが如くんば、到底女子大學設立の曉を見るべからざるのみならず、眞個に女子教育の普及發達を妨害するの太しきものなりとす。

尙早論なるものは總じて何等の事業にせよ、之を創設するの際には、起り易き一種の反對論にして、吾人が初めて女子大學設立の趣旨を世に公にせし時より、既に業に豫期せし所なれば、其の起るは素より吾人の怪まざる所なり。然れども世人一般が其必要を認識し、一人の早尙論を唱ふる者なき曉に至て之に着手せんか是れ既に幾分か其の時機を失ひたるものなれば、尙早論者の辨難聲裡に、之れが創設に從事するは極て緊要のことなりとす。而して吾人の意見を立證するものは、獨り教育史あるのみならず、總ての事業の歷史は皆吾人の意見を立證するものなり。況んや本邦女子

の中等教育は、其普及未だ完からずと雖も、識者の眼中には女子大學の必要既に判明なるに於てをや。

然るに惑る論者は曰く、設令女子大學設立の必要ありとするも、今日之を大阪に創設するの必要を認むる能はず、何となれば、大阪の教育は未だ十分普及發達せざるのみならず、大阪の境遇は教育に有害なりと。是れ亦實に一應道理ある議論なりとす。吾人は元來關東に一校關西に一校、九州に一校、都合三校の女子大學を設立して、之を日本女子教育の三大中心點となし、以て其上進、改善、及普及を謀らんと欲するの素志を懷く者なるが、之を創設するの順序は、通常の場合より之を云はゞ、先づ東京より着手し、順次關西九州に及ぼすべきを以て、當を得たるものなりと信ず。然るに日本の教育は殆んど東京に吸集せらるゝの觀あり、是れ日本教化の爲めに決して賀すべきの慶事にあらざるなり。教化の中心は成べく之を地方に分配せざるべからず、而して關西に於て京都の如きは既に京都大學の設立せらるゝあるも、關西の小腦若くは大腦の地位を占めたる我大阪に於ては、商工の發達頗る神速にして、其の機關も近年大に整頓せしと雖も、尚ほ一の教育中心點あるなし、一の教化中心點あるなし、是れ實に我大阪の風俗が實利に偏し、人情が浮薄なりとの惡評を招く以所に非ずや。夫れ然り、教育機關の發達、三府の內最も進歩し居らざるを以て、却て女子大學を設立し、關西に於る教化の中心點を造り、以て風俗人情を改善するの必要を認む。勿論一方より、之を論ずれば、四圍の境遇善良なる所に學校を設立すべきは、教育學者の定論なりと雖も、亦一方より云ば、學校は社會を教育し、社會の腐敗を淸むるの力を有するものなれば、腐敗せる社會には却て學校の必要を認むるものなり。故に素より吾人必ずしもは大阪の社會腐敗せりとは謂ざれども、惑る論者の曰る如く、大阪の社會が果して一般の教育機關を損傷するに有力なりとせんか、却って益々大阪に女子大學設立の必要を感ぜずんばあらざるなり。且つ社會境遇の善不善、良不良は、到底比較的のことのみ。東京の社會境遇は善良なれども、大阪の社會は不善不良なりと云ふ者あるも、是れ只五十歩百歩の差異のみ。東京の社會境遇必ずしも有効にして、大阪の社會境遇は悉く有害な

るもののみにあらざるなり。若し論者の説を嚴密に實行せんとせば、深山幽谷の地に學校を設けざれば能はざるなり。是れ到底言ふべくして行ふべからざるの説なり。設令ひ其の境遇に一害ありとするも、亦た一利なきにあらざるなり。夫れ今後の日本社會は桃源の神仙社會にあらずして多事多忙の活動社會なり、而して日本國中社會が最も活動し生命に充滿せる處は日本國中大阪を以て最とすべし。大阪は實に今後に於る日本社會の活動の本源にして又中心なり。然るに活動社會に生存する者は活動的ならざる可らず。而して其の活動的の人物は活動社會に於て之を養成せずんば得べからざるなり。彼の翠簾深く垂れ込めたる裡に人となりたる柔弱なる女子は恰も暖室中の草木と一般未だ鍛錬足らざれば活動的社會に於て何の貢献する所も無くして終らんの恐ある可し。加之教育法其宜きを得なば却て幣風惡俗に感染せざるのみならず、其の不良の境遇に對する反動の結果は大に健全なる良心を養ふを得べきは吾人の既に經驗する處なり。

是れ此の數點は則ち吾人が先づ第一に地を大阪にトし女子大學校を設立せんと欲する所以なりとす。

日本女子大學校設立の必要

貴顯紳士諸君。今日は斯くも賑々しく御光來の榮を忝けなう致しまして、實に感謝の至りに存じます。私は先づ第一に日本女子大學校の趣旨を述ぶべきでございまするが、これは既に主意書でも陳述致し、また拙著「女子教育」及び此頃出ました「女子教育談」の中にも略々表はれて居る次第でございまするから、これは重ねて申し述ぶる必要はあるまいと思ふ、故にこれは省くことに致します。

私が幼年の頃でございましたが、私の鄕里の縣會に一大爭論が起りました、其時の模樣は明らかに記憶して居りまするが、これは學校と病院との先後輕重の爭ひでございました、甲論者は曰く、健康は百般の基礎である。先づ病院を起さんければならない。乙論者は曰く、教育は國家生長の根本である個人發達の基礎であるからして、宜しく先づ學校に力を致すべし、病院は後廻しにする方が宜しいと云ふことであつた。ところが今日でもこれに類する爭ひが、往々この社會に現はれることでございます。商業家は曰く、商業が第一である、軍人は曰く。軍備が第一である、又た教育家が申しまするには、教育が第一であると。斯の如くに互ひに相爭ふと云ふことは昔も今も往々起ることでございまするが、これは國家と云ふものは、彼我相須つて隆盛に赴くものであると云ふことを氣附かざる僻說である、國家を自分と同一に感じない誤謬の意見であると云ふことは、誰も分ることでございます。固より商業にあれ、軍事にあれ、教育にあれ、その從事するところの職業に熱中すると云ふことは、實に賀すべきことでございまするが、併しこの社會と云ふものは錯綜せる機關を有つて居る有機體であつて、彼我相待ち、相關係し、相助け合うて成立つて居るものである、生長發達するものだと云ふことを忘れ、この社會大局の上より打算し來って方針を立てないときに

は、大いなる禍害を招くことでございます。

この我日本帝國は四千萬の國民を以て成立つて居る一つの身體でございます、この身體の中には種々の機關がある卽ち手足と云ふべきものがある、又は五臟と云ふべきものもある、或は腦髓神經と云ふやうなものがございまして、この總ての機關が相待つて初めて生存を保ち發達を遂げて行くことが出來る。そこでこの國家の手足となり、腕力となるものは兵力であり、この身體の中を循環して、而して身體を養うて居るところの血液は商業であり、その血液の循環を司どり、またこの四肢の運動を支配するところの腦髓神經となって居るものは、教育であらうと考へられます。それゆゑにこの身體が一も缺ける所なく、完備して居りましても、若し此中の腦髓が病氣に罹り或は神經が衰弱致しましたならば、この身體は或は白痴になるか、又は痲痺して役に立たない樣になって參ります、又た之の腦髓はいくら健全でございましても、この身髓の中の血液が腐れてくるか、或は循環が惡るくなりましたならば、この腦髓は働きを全たうすることはできないやうになつて來る。それでこの社會と云ふものは、凡ての機關が相待つて一致共動し、互ひに相顧みて、各部が活潑に活動をいたしまして、初めて進運隆盛に成ることが出來る譯であらうと考へます。

國家におきましてもまたその通りでございます。その腦髓たり神經たる教育が正當に活潑に活動して居ないときには國家は痲痺し、國民は無智となるのであります、國家の諸機關は互ひに彼我の痛痒を感せず、隨って公共心並に愛國心と云ふものを失ひ、私を去つて公につき、協心同力國家の大事を爲すこと能はず、四分五裂私利を是れ貧るの慘狀に陷ります。併しながら商業が衰へ工業が振はない時には、國何を以て富み、民何を以て裕かなるを得ませうか。國瘦せ民貧しきときには、教育何を以て行はれ、人情何を以て淳厚なるを得ませうか、軍備何を以て完備し國威何を以て發揚するを得ませうか、若しまた兵備の完備を缺くときには何を以て外國の侮辱を免かれ亡國の禍を脫することを得ませうか。そこで國家の進運隆盛と云ふものは、その萬般の諸機關が打ち揃ふて圓滿平均に發達するにあらざれ

ば得て望むべからざる次第であります。

然るに我が國の現況は如何でありますか、諸機關發達の程度は如何でありますか、又その發達は能く平均調和してをりますか、これは大切なる問題でございませうと思ひます。今この我が帝國の身體の中に働いてをる諸機關の發達をこれを歐米各國の有様と比較して見ましたならば如何でございませうか。この富の力なり、兵の力なり、教育の力なり、遺憾ながら我が帝國は未だ諸強國に及ばぬところがある。私が今茲に之を申しますのは吾國民たるもの大に警醒覺悟し「勝て兜の緒を緊めよ」との戒を服膺すべきを深く感ずるからであります。吾が國民の眞に成長發達して偉大たらんことを熱望するより之を云ひたいです、先づ我が海國たる日本の海軍の力は如何であるか、統計上よりいへば世界の中で第八番目に位して居るそふであります、また我が國と最も事情を同うして居る所の英國に於て軍備の爲めに個人が負擔するところの金額は十圓十八錢である、然るに我が帝國に於ては僅かに九十六錢でございまして未だ十分の一にも及ぶことができないそふであります。それから我が富の力は如何であるか。我が日本の金滿家と云ふものは幾千萬圓を以て數へられてをるけれども歐米の金滿家と云ふものは幾億萬圓を以て算へられてをります。その他凡て生活の度から富の度を精密に比較して見ますならば、これは申すまでもない分つてをるところの事實であらうと思ひます。

またこの國家を生長發達せしむるに最も大切な機關であるところの教育は如何であるか。これは私がこの數年間調査をいたしました我國の教育の有様と歐米の教育の有様とを比較したところの統計を屢々世に公けにしたことがございますが、どうもまだ我國の教育の有様は歐米の文明諸國の教育の有様と比較したらどうです。我四千四百萬の人口を有して居るところの帝國と、凡そ同數の六千萬ばかりの人口を有して居るところの亞米利加（アメリカ）の大學校の數に比べてみますならば、我國に於ては大學が二、高等學校が六でございます。然るに亞米利加に於ては、大學校と名づけるも

のは三百七十六、殆んど四百近くもございまして、大きな學校には二千三千、少しく下りたる程度の學校には四千も一校に持つてをるところのものがあるです。その生徒の數から申しましても、學校の數から申しましても、乍遺憾我帝國の教育發達の度は未だをくれてをる、また普及の程度から行きまして、我國の小學に於ける女兒の就學數と云ふものは百分の四十で、餘りの六十人、百人に對する六十人と云ふものは、無學文盲の民を育てゝ居ると云ふ有様になって居る。これは我帝國の身體の中を動かして居る、身體を作つて居る、この身體を養うて居るところの、色々な機關の比較でございまするが、もう一つ考へて見んければならないことがある。假令ひ日本帝國と云ふ一つの身體は少々小くあつてもその諸機關の成長が善く平均調和して居れば將來日本の發達することが實に速かであります。然るに我海軍の力は、世界各國の中で第十二番の地位に居りましたが、日清役後一躍して第八番目まで進歩したそふである。また我商工業の機關は如何であるか。これまで諸會社の資本金と云ふものは、數十萬圓を以つて數へられて居りましたが、今日は數百萬圓と云ふことまでに進歩して居ります。また我航路は歐米にまで延長されて居ると云ふ有様である。併しながら教育と云ふ機關は、他の機關が發達したやうに膨脹したやうに、同一の割合をもつて進歩して居らざるのみならず誠に萎縮して振はない、どうも教育機關は停滞をして先きへ行くことが出來ない。そこで教育は是非進めなければならない。國民を育てなければならないと云ふ必要は迫つて居るけれども、その機關を運轉させる力がないのでございます。今日全國に於て小學校の正教員の不足が二萬人と云ふことである、中學校の教員も足らぬで、文部省に於ては困つて居らるゝと云ふ有様である、またこのごろ京都に大學校が出來ますが、この大學校へ送るところの教授も足らない、これからどうも歐羅巴（ヨウロッパ）へ留學に遣らんければならないと云ふ有様である、女子教育は勿論である、まだ男子教育の着手せんければならぬものが着手が出來て居らない、進めんければならぬものが進めることが出來ない、他の機關の發達と決して平均を取ることが出來ない、大いに權衡を失ふて、恰も日蔭の植物のやうな有

様を呈して居るのでございます。我が國の外交政略は、軍艦を殖やし兵力を強めたならば、それでよろしふござりませうか。如何に軍艦が堅固でありましても、兵隊に勇氣がありましても我國から諸方へ出て居る人民が無教育であるときは如何にして外國の侮辱を免かるゝと云ことが出來ませうか。無論外交と云ふものは只だ軍艦を以てのみ出來るものではない。その國民の德義と、その國民の智識とが進歩しなければ、決して對等の交際を續けることは出來ないので御座います。私が米國から歸りますときに一と晩布哇（ハワイ）へ立ち寄りましたが、その港には浪花艦（なにはかん）が碇泊をしてをつた。その軍艦を見て實に悅ばしい感じが起りました。それから港へ上つて多くの日本人に遇ひましたです、ところが私はその晩どうも慨嘆に堪へぬで能く眠ることが出來なかつた。また桑港（サンフランシスコ）へ行きましたときには感慨の情が一層甚だしゆふござりました、多くの我青年が桑港へ上陸をして居りますが、多くは墮落して居ると云ふて宜しい位である、桑港に於て墮落しないところの青年は實に豪傑でございます。えらい人物でございます。私は其有樣を云ふに忍びませぬが、實に我國民は蒙昧な不德なるところの下等人民を外國へ出すことに據りて我國辱を來たして居るのではないかと思ふ。どう云ふ有樣であるか、只今一つの例を擧げまするならば、彼の支那人でも野蠻人でもすることを好まないのに、我國の下等人民は金錢の爲めに、己れの女房を他人に辱しめさせるといふを聞きました。これは實際諸君は目擊なさらぬから痛痒を御感じにならないと思ひますが、實際外國へ行きまして、その內幕へ這入って能く觀ますと云ふと、實に慨嘆に堪へない。幾ら我帝國が軍艦や兵士を外國へ出しましたところが、若し我國民たるところの人民が腐敗したり、或は蒙昧に陷ったり、卽ち教育が進まずに居りましたならば如何にして我國光を世界に輝かすことが出來ませうか、この要點を摘んで言ば外交上に就て考へても教育普及の必要ありといふのであります。また商工業と教育とを比較して見ますならば今日大阪を一見した者は、直ちに商工業の盛んなことを感ぜぬ者はございませぬ。併しながらこの大阪と云ふ都會の神經となって居るところの教育と云ふものを考へて見ましたならば如何であるか。ま

たこの我國民の智識の程度を比較して見たならば如何であるか。我國は隨分物品を外國へ輸出して居ります、併しながら我國民が曾て我國の智識を外國へ輸出したことがあるかです、多くは我國の新知識新學問と云ふものは外國より輸入されて居る。善くこの教育と云ふ機關と商工業と云ふ機關とを比べて、教育の有様を考へて見まするとどうも平均が取れない。また憲法其他の法律と云ふやうな政治機關も人民が不德蒙昧であったならば、何の役にも立ちませぬ。立派なる憲法も國民の教育が進まなかったならば、却って國家に害を爲すことがある地方自治の如きも無智蒙昧の民には、その恩澤を蒙むらしむることは出來ない。然るに我が國の憲法、我國の法律は美を極め善を盡くして居るやうに見えまするが、その憲法が進み法律が進み、その他政治機關が發達したほどにこの國民が發達をして居るか、教育はその割合に進歩して居るかと云ふと、これも權衡を失して居るやうに見えます。それが爲めにこの社會に今日種々な腐敗や弊害が現はれて居ると云ふことは勿論どなたもお氣附になって居ることであらうと思ひます。

それでこの國家と云ふものは總ての機關が相平均調和して能く働らきを爲さんければ、どうしても能く成長することは出來ませぬ。然るに善く觀察をして見ますと云ふと、我國の教育機關は、他の軍備や、商工業や、政治機關などに後れを取って居ります。それで私は第一にこの諸機關を外國の身體に比較を致し、またこの我國の内部の有様を考へて見まして、實に遺憾に思ふ點がございます。またその比較を失ふて居るところの教育と云ふ機關の内部をよく探って見ますと云ふと、どうもまだこの教育機關を充分これから他の機關に後れを取らぬやうに發達せしめやうと思ひまするには大いに缺けて居るところの點があるやうに考へられる。

今私は教育機關の缺點を擧げて見たいと思ひますが、時間が掛りますから茲には唯その箇條だけを擧げて見ませうと思ひます。

その(第一)の箇條は我國教育の學制である。學制を茲に改革せんければ時弊を救ふことは出來ぬと云ふ一つの必要が

迫って居りはせぬかと思ふです。

(第二)は學理である。教育機關が眠って居ると云ふものは、教育の學理が眠って居る、教育の學理が研究されない、四千萬の人口を有して居る我帝國が、一人の教育專門家を大學の教育學の椅子に置く力がない。また今日女子教育に付ては種々弊害が現はれて來た、これはいけないと云ふことは誰も氣付て居りまするが、これを歴史に訴へ、學理に照らし、以て研究してその方針を明らかにすると云ふこと、卽ち我邦女子教育の學理を研究すると云ふことは大いに怠って居る、今日は總て學理的に、根本的に研究をしなければ決して好結果を得られないですが、我國の教育と云ふものは學理の研究と云ふものに大いに怠って居る。

(第三)は普及、前にも少しく申しましたが、殊にこの女子教育の普及と云ふことは誠に嘆かはしき有様で、この三府四十六縣の中で未だ高等女學校のない所は四十一縣ございます。また大阪の如きは既でに高等女學校を一箇持って居りまするけれども、その生徒は僅かに六七百人に過ぎない、その六七百人の半は殆んど小學教育の程度である。これを彼の亞米利加の「ブルックリン」卽ちこの大阪と殆んど人口を同じうして居るところの「ブルックリン」の中學校と比べて見ますると、その公立學校には女生徒の數が二千人、男生徒の數が六百人でございます、またもう一つの私立學校は、生徒の數は四千人ございまして、その中の三千人は女學生である。もう一つ大きな師範學校がその市街に立って居りまするが、これは悉く女生徒を以て成って居るのである。さうすると既にこの三校だけで五六千人の女學生を持って居るのです、その他にも尙ほ種々な女學校があるでございます、けれどもこの大阪の都會に於ては唯一つの高等女學校を似てそれで事が足りて行くので御座います。

(第四)は最も大切な事でございまするが、これを辨じますると餘り長くなりますから略しまするが卽ち教育の精神です。

（第五）の缺點は社會教育。
（第六）は家庭教育。我國の教育機關は家庭教育と社會教育とを缺いて居る。この事は既に東京の發表會に於て陳述をいたしました。
（第七）の缺點は女子教育を缺いて居る。これは大變大切なる問題であらうと思ひまする。教育機關にして若し女子教育を缺いたならば、これは片輪の教育と言はんければならぬ。彼の江原君は、女子教育を缺いたところの教育は鳥の羽翼の一方を切ったやうなものであると云ふことを言はれて居る。併しこれは鳥の羽翼の一方を切ったばかりではない、卽ち根本を缺いて居るところの教育と言はんければならぬであらうと思ひます。
私が玆に我國の教育機關は女子教育を缺いて居ると申しましたのは普及の程度から申したのであります、また發達の程度から申したのである。我國の女子教育は未だ小學校と云ふ區域を脫することは出來ないのである。また我國の女子教育は精神を失ふて居る、充分に發達をしない、この女子教育に付ては今日種々樣々の弊害があり、また國民が女子教育に就て方針に迷ふて居る。是等の點を以て私は我帝國の教育機關は女子教育を缺いて居ると云ふ言葉を用ひた所以でございます。
そこで我々が國家の有樣を考へますると、これから將來を慮りて、是非玆に教育機關を完備させねばならないと云必要に迫りて居りまするから、玆に日本女子大學校と云ふものを設けて、その缺點を補ひ、その精神を回復し、その普及發達を助け、その模範を作って、どうか方針を確定したいと云ふ希望を持って居るのでございます。斯く女子教育を完備にして、この女子教育の力に據って、大いに男子教育に影響を及ぼさうと云ふのである。卽ち言を換へて云へは、我教育機關に根本的の改革を行はんければなるまい、根本的に改良をすることに力を盡して見たいと云ふ希望でございます。それで今日本女子大學校——この大學校と云ふ言葉は、隨分諸君のお耳觸りになるかも知れないと思ふ

のでございますが、私の大學校と云ふ意味は東京の帝國「ホテル」に於て既に陳述致し、また之れに付てその考への大體を「太陽」の中にも陳述して置きましたからして、諸君の中には既に御承知の方もあらうと思ひます、また御承知のない方もあらうと思ひますが、この女子大學校の性質は如何なるものであるか、それに付てはかう云ふ弊害がありはしないか、かう云う點はどう云ふやうに考へて居るかと云ふやうな、諸君の中に種々様々の議論やら反對やらが起つて來るかも知れぬと思ひます。これに就ては詳しく私の精神を申上げたいですけれども、時間がない譯である、またその幾分は女子教育談の中にも現はれて居る譯でありますからして、これは略しまして、この女子大學校と云うものが何故に今日起らんければならない必要があるかと云ふ、その理由の二三を述べて置く事に致したいと考へます。

工商業の爲にも又軍備の爲にも、或は醫學の爲にも大學校の設がある。陸軍大學校と云ものは軍備の爲に、我陵軍の爲に缺くべからざる教育機關である。また政事機關の爲めに法科大學が必要である。醫科大學と云ふものは我國民の健康を保ちて行く上に於て一日も忽せに出來ないものであると云ふ事は明らかに分つて居る事でございます。加之今日は染物屋の爲めにも、大工の爲めにも、土方の爲めにも大學校が要ると云ふやうな有様になつて居る。それどころではない、これまでは役に立たない者として棄てゝ居つた所の白痴の爲めにも、馬鹿の爲めにも、盲目の爲めにも、或は啞の爲めにも大學校が要るやうになつて來て居る。このごろ亞米利加に於て啞で聾で盲目で、見ることも聞くことも言ふことも出來ない所の娘が段々教育を受けて彼の名高い「ハーヴァード」大學に入學した者がある。私が視察中にもその盲啞學校に行きましてその發達の有様を見て驚いた、卽ち白痴教育、物を言ふ事も出來ぬ、物を辨へることも出來ぬ、數を算へる事も知らないその馬鹿に教育を施して段々社會の有害を除くのみならず、幾分か社會へ益を與へるやうに人間を拵らへ直すことが出來る、實に教育の力と云ふものは恐るべきものであると云ふことは、この白痴

院へ行き、或は盲啞院へ行くと云ふと深く感ずるのでございます。然るに獨り女子の爲めに大學校と云ふやうなる機關は不必要であると云うものがある。また女子教育は必要であると認めて居るものは無論多くあるのであるが、併しこの女子教育ほど六ケ敷いものはない、困難なるものはない弊害の起り易いものはない、然るに何故にこの困難なる女子教育の爲めに大學校を建てその發達を促す必要はないか。大學校と云ふものは總ての機關を學理的に研究して、根本的に發達を遂げさせると云ふ機關である。如何なる機關を發達せしめんと致しましても、どうしても學理に據らんければ本當の發達を遂げしむる事は出來ないと云ふ有樣に今日はなつて居る。それで私は今日我日本帝國の爲めに、日本女子大學校を起して、總ての機關の根本を養成したいと考へて居りまするが、私の大學校と云ふ意味には二通りあるです。第一は高等普通教育、第二は專門高等教育である。高等普通教育は人間を作くるに缺くべからざる機關であり、高等專門教育は專門家を養なふに缺くべからざる機関であります。今後我日本帝國の婦人は如何に教育すべきであるか、如何に養育すべきであるか、かならずや圓滿なる人と爲さんければならない、優美淑德を備へて居るところの婦人と爲さなければならない、智德に兼ぬるに健康を以てして居るところの國民を養成せんければならない。卽ちこの人間を作るに、婦人を作るに、國民を造るに、高等普通教育が必要である、また女子は藝能を要しまするからして、高等專門教育が必要であります。勿論高等教育と云ふにも、女子に對して高等と云ふのであります、又女子の簡易專門教育に對して云ふのであります。故に勿論其時代の女子に適當の高等專門教育と云ふ意味であります。それで私は今日高等普通教育の必要も論ずべきでございますが、餘り長くなりますから略します。併し東京には女子高等師範學校があり、また諸方に高等女學校と云ふやうな備へもあるのに、その上に斯云ふ女子大學校と云ふやうなる學校を起す必要は如何なる所に在るかと云ふ理由を少しく述べて終りたいと考へます。

（第一）今日の女子教育は器械的或は實用的になつて居る、職業的になって居る、然らざれば遊戯的になっている。父

兄が自分の子女を學校へ送るのに、何か教育をして置いたならば、自活の途を得るであらうと考へて居る、然らざれば慰み半分に勉强をさせて居ると云ふ有様である、それゆへに器械的にあらざれば職業的である、または遊戯的であつて國家に最とも必要なる人間を造り、圓滿なる女子を造ると云ふ教育が缺けて居るのである。卽ち是等の缺乏を充さんが爲めに斯くの如き女子大學校を要する譯であらうと思ひます。

（第二）は今日の女子教育にて弊害が多い、どうも學問をさせると生意氣になつて、女らしい所を缺くやうになると云ふのが一つの弊害である。もう一つの弊害は學校へ遣ると云ふと世間のことに疎くなる、家庭の風に適しないやうになる、家風と云ふものに遠ざかつて來る、實際に役に立たないやうになると云ふ事であります。是等は實際女子教育の中に現はれて居るところの弊害であつて、これを打ち消す事は出來ないのであります。然るに高等教育を授けると云ふことになると、その弊を一層烈しくするではないかと云ふ議論が起りますけれど、それは教育と云ふことを知らない人の考へである、教育と云ふものはさう云ふ不謙遜な、傲慢なる所を去り、又は惡德である凡ての汚れたる點を取除いて純粹にするのが卽ち教育である。教育と云ふものは種々様々に交つて居る金屬を熱火の中へ入れて純金に仕直す所の方法手段でございます。これは實際に於て現はれて居る所の現象である。今日世界各國を歩いて見まして、多くの人に面會をし、交際をして見まして、實にどうも深切であるどうも謙遜である、どうも善い人であると云ふて賞められる人は如何なる人であるか、高等教育を受け、教育を全たうして居るところの男女でございます、それで今日の女子にある惡弊と云ふものは教育を與へてこれを矯正するより他に方法はないのである、また今日家政に疎いやうになると云ふのは、社會にも一つの弊がございまするが、一方から云へばその重なるものは寄宿舍である、寄宿舍の制が惡いのである、もう一つは我國の家庭が惡い爲めに教育が出來ぬ。今日世の中に何所か善い處があれば自分の女子の教育を托したいと云ふて居る人が澤山ある。この頃東京の有名なる教育家の中に、さう云ふ學校が出來た

ならば、假令其學校が九州の端に置かれやうが、北海道の端に設けられやうが、私の娘を托したいと云ふて居る人がある。どうも今日の寄宿舍制度が不完全であるから玆に一つの模範的學校を設立して、立派な家庭の風を造り、實に善良なる家庭の風と精神とを注入しやうと云ふ必要があるからして、今回金を入れ、完美なる理想的の寄宿舍を設けた所の一大學校を起さうと云ふ必要が生じて來た譯でございます。

(第三)は今日の女子教育の缺點は女教員がないと云ふことである、實に模範の婦人がない、善い母親となるやうな者がないと云ふことである、この頃私は學校の爲めに善い人を集めて第一に善い舍監を得たいと思ひまして彼方此方搜して、種々な婦人に交際して見ましたが、賢婦は何れに在るかと云ふて嘆息したことが屢々ある。この頃この女子大學校を起すに付て熱心に賛成して、大いに骨を折つて居られる一人が、永く自分の子息の爲めに善い嫁を欲しいと思ふて、需めて見たけれども、どうも賢母良妻はないと云ふて大いに嘆息し、これではいかない、どうしても女子大學校を起さんければならないと云ふ感じを起されたと云ふことでございます。

(第四)は音樂と云ものはこの社會の腐敗を一洗する爲めに必要である。家庭教育を助ける爲めに缺くべからざるものである。然るに我日本の音樂と云ふものは實に不完全である、我國で一番發達をしないものは音樂でございます、特に婦人に大切なる音樂が一番發達をして居らない。又改良すべき點が種々ある。この頃音樂專門家の言葉を聞きますと我日本は音樂に於ては彼の支那よりも、印度よりも、亞弗利加よりも、劣つて居る、これを歐米各國に比較して見たならば百年ほど後れて居ると云ふ事であります。併し今日我國に於て音樂を發達せしむると云ふことは非常に骨の折れることで、學理的にやらなければならぬ、學問的に根本からやつて來んければ國民の道德心を直し、或は家庭の有樣を善くし、其他種々の教育を全たうするやうな音樂は發達しないのであります。故に我帝國にかう云ふ音樂、卽ち音樂部を有する所の完全なる大學校を起さんければならぬと云ふ必要があります。

(第五)は我國の教育の中で一番後れを取つて居るものは體育である。勿論精神的の教育もさうでございますが、體育は殊に後れて居る、一番研究の出來て居らないものは體育である、成程總ての小學校にも大學校にも體操と云ふものはある。これは如何なる體操であるか、唯各國でかう云ふ事をやつて居るからして、おれもやらうと云ふ事であるけれども、學理的に研究をしたのではないのである。それで今日の女學校でも男子の學校でも、一つの缺點は卽ち學生の身體がわるい、身體を弱くして居る、發達を妨げて居る、このことはこのごろ文部省で調べられたところの統計が証明をして居る。歐米に於ても一時學問の爲めに身體をわるくしたと云ふ時代が在つたでございます、けれども今日亞米利加などの女子大學校、その他男子大學校の統計は何を表はして居るか、大學校へ這入りましてから卒業するまでに身體の機關が大變に進歩して居る、またその學校へ這入りましたところの女生は、學校へ這入らないところの女生よりは身體が宜くなつて居る。これは彼の國の大學校から出て居るところの統計表に現はれて居る。尤も一年の統計表を示すのみならず、毎週間統計を取つてやって居るのです。これはどう云ふものであるか、その基は何處に在るかと云ふと體育學科と云ふものが盛んに行はれて居るです。それに付ては獨逸(ドイツ)には獨逸體操と云ふものがある、瑞典(スウエデン)には瑞典「システム」と云ふ體操がある、亞米利加には亞米利加の體操がある。この體操の術と云ふものは百年の星霜を經て遂に今日に至つたのでございます。加之一般男子にも女子にも醫學と云ふ智識が注入されて居りまするからして、この醫學と云ふ智識が大いに國民を發達せしめる、大いに身體を發達せしめて居る。然るに我國に於ては體育學と云ふものは一向研究されて居らない、今日の體操と云ふものは學理に適して居らない學理に據つて方針を定めて居らない、多くは各國に行はれて居るところの有樣を眞似てやると云ふ有樣であるからして、これではいかない、矢張りこの身體を善くするには體育學と云ふところの學問が必要である、これが爲めに矢張大學校が要る。亞米利加の大學校には必ず體育部がある、また體育學校、或は體育大學校と云ふても宜いやうな學校もある。それ故に今日我國

に於きましては、學理を研究して根本的から改革をせんければならないと云ふ必要がございまするが、今日の女學校には醫學を心得て本當に體育の分る教師は一人も居らぬ。今日は學校に於て醫學や生理學其他衛生學の精神を吹込むと云ふことは大いに怠つて居るです。私はどうしても日本の女子學校の爲めに茲に體育學を學んで少しく醫學や生理や心理や教育學が分つて居るところの體育教師を養成して各地の女學校へ派出し、大いに女子の體育を起さんければならないと云ふ必要が迫つて居ると云ふことを感じます。故に將に起らんとする大學校には體育部を設けたいと云ふ精神でございます。

（第六）にはその他衣類の爲めにも家屋の爲めにも、毎日我々が喰べて居るところの料理の爲めにも或は庭園の爲めにも大學校が必要である。育兒の爲めにも必要である。今日我國に幼稚園と云ふものがございますが、この幼稚園の缺點は何處に在るか隨分總てのことが完備して居りますけれども唯一點缺けて居るところのものは何か、卽ち保姆が、學理を知らない、唯恩物を與へて居る、運動をさせて居る、さうして何が爲めにその恩物を與へるか、どう云ふわけでかう云ふやうな子供を扱はなければならぬと云ふところの學理に至つては保姆は知らない、それ故に却て幼稚園には時々害を醸して居るところの弊がある。子供を傳する位の事には學問は要らないやうに思はれまするが、決してさうではないです。例へば私共が病氣に罹つた時に、藥屋へ行て藥を買て來て飲ば治さうなものであるが、さう云ふ譯にはいかない。どうしても醫者に據らんければならない。若し醫者に據らずして唯藥屋へ行つて藥を買ふて來て飲んだならば……劇藥を飲んだならば偶には當ることがあるかも知らぬが先づ多くは害を及ぼして、遂に身體を亡ぼすと云ふことが起つて來る。醫者と云ふものはその道の學理を善く知つて居る。この藥を與へたならばどう云ふ結果を現はすと云ふことを明らかに解つて居る。この醫者と云ふものは私共の病氣を癒やす爲めに必要である様に幼稚教育の爲めに學理を辯へたる保姆が必要である。

實は今日私の腦髄は大に疲れて居りまして、充分に皆さんがおわかりになるやうにお話することは出來ませぬでございました。又一問題について一時間も二時間も掛つて說かんければならぬことを僅か二分か三分で申しましたからして、どうしてもその意を盡くすことは出來ないのでございます。私は遺憾に考へて居りますが、唯私は今日の我が國家と云ふ事を考へまして、この教育機關の有樣を考へましてどうしても我日本の爲めに、我教育機關の爲めに、特に女子教育機關の爲めに斯る女子大學校を全國に三箇ばかり起すところの必要がありはしないかと思ふのである。卽ち關東に一校、關西に一校、九州に一校を設け、而してこれを女子教育の三大中心といたしまして、その普及發達を助ける必要はないか。これを文部省で直ちに着手すれば宜からうと云ふやうな考へも起りますが、前に述べましたやうに文部省に於ては小學教員すら二萬人も缺けて居り其他種々事情がありまして、今日直にこれに着手は出來ないと云ふ今日の有樣を呈して居るのでございますから、此際我々國民は奮つて大いに警醒して、共同一致して、この女子教育の發達を助けると云ふ必要があらうと云ふ考へで、この女子大學校の起らん事を、希望して居りましたが、今や事略ぼ緒に着きまして貴顯紳士の熱心なる御賛成を得、この大阪の地に第一に斯の如き女子大學校を設立せんとする運びに至りましたことは國家の爲めに誠に賀すべきことであると信じて居ります。

私は滿堂諸君の公共心、諸君の愛國心、諸君の義俠心、諸君の富の力は、能くこの女子大學校を設立せしめ且つ永遠に發達せしめ玉ふところの力があると云ふことは信じて疑ひません、願くは私共の微衷を洞察されてどうか充分の御賛助を仰ぎたいと切望致します。（拍手大喝采）

（明治三十年八月出版）